

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公)

討議年月日:令和 3 年 9 月 30 日

公表:令和 3 年10月 5日

事業所名 キッズラ
ンド扶養

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		スペースを広く保つよう常に整理整頓心がける	
	2	職員の配置数は適切である	○			
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		危ないと思われるものは常に取り扱う	身体的な障害としてのバリアフリー項目には当てはまらないが、児童の活動に危険が及びそうな個所については常に気を配っていく
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			保護者からの意見については全員で確認し、意見交換をしていくことで正しい方向性を見つけていく
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			ホームページに公開している
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		保護者の評価を真摯に受け止めることで第三者外部評価の代わりとするだけでなく、毎日の支援での反省を深めていく
適切な 支援の 提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		常に研究しながら情報共有している	事業所内研修を施設長が行っていく 施設長はオンラインの外部学習を続ける
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		送迎時に保護者と話す機会を多くするよう心掛けている	サービス計画の内容を全職員が常に意識できるように日ごろから子供についての変化の情報をたくさん共有する
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			こども行動について、特に問題行動があるときには記録を怠らず、何か月間の変化を観察していく
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			活動プログラムについての意見交換は頻繁に行い改善していく
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		大幅にプログラム改善を行った	研究を引き続き重ね常に変化を求める
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			長期休暇の課題については直さなくてはいけない課題が満載で、日ごろのプログラムを充実させることでヒントを得る
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			集団活動をさせるときでも、個々人の特性を必ず考慮すべきで、いままではこの点が不足していて児童の苦手に対して押し付ける結果になった点がたくさんあり、今後の大きな課題である
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			必ずやっているし、今後も続ける
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		個々の児童に関して具体的な事例を示すようになっている	必ずやっているし、引き続き行う
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		こどもの活動内容に関して記録を毎日行う	活動内容記録のみならず、問題等の記録を行い、正しいアセスメントにつなげられるようにしていく
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		日ごろから児童の様子や変化などについて職員間で話し合いが多い	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○				

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			施設長が必ず参加して、その後報告を済ませる	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		学校との連携には常に心掛け、情報を共有している		
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○			医療的ケアを必要とする利用者はいない
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○			相談支援事業所との連携を深めていく
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○			児童の年齢が低く、そのようなケースはまだ存在していないが、必要になった時には適切に対処するよう心掛ける
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		扶桑町で行われた研修に積極参加した		役場で行われる研修には参加できるように時間を調整する
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○			児童館との交流は、今コロナの関係でできない状況だが、解除されたら積極的にやっていく
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		必ず参加するよう心がけている		参加の時には積極的に発言を心がけている
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○				送迎時に対面できない一部の保護者に対して、手紙などで対処していく
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○			
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に時間をかけて説明している		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○				必要な助言を行えるような資質を備えることが一番大切だ。常に自己研鑽のため読書する習慣をつける
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	年1回の、専門家を招いての講演をしている		
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○				保護者からの苦情に関しては真摯に受け止め、一方的に謝るということではなく、苦情の内容を吟味し話し合い、何が悪くてどのようにすべきなのかをしっかりと職員間で話合うことが大切だと認識する
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		○			
	35	個人情報に十分注意している	○				引き続き気を引き締めて注意していく
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○				できるだけ多く保護者と話し合う機会を作って情報交換していく
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	近隣住民の生活環境を守ることに気を配っている		近隣の生活環境を守る点に対しては気を付けることはできるが、招待して関係をもつことまで要求される事業状況ではない

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		感染症についての周知はできた	防犯マニュアル、緊急時対応マニュアルの周知を早速行う
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			避難訓練を子供の活動プログラムで実施しているが、レベルアップを目指す
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待、いじめとはどういうことか、日ごろから話し合っている	とても大切な課題として今後も毎日とその取り組みなんだという考え方を共有し反省していく
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○			
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		契約時にアレルギーについての確認は済ませている	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			ヒヤリハットの範囲をどこまで広げるか、職員間で話し合いを徹底させ、子供の安全確保に対する意識をもっと高めていく